



お知らせ

【教育実践論文】応募期間が近付いてきました！

- ・ 応募期間：11月21日（月）～11月30日（水）
- ・ 募集要項等は、教育センターWebに掲載しています。（「SEI-Net 文書管理」にて県内各学校に送付済み）
- ・ 次回の「ミネルバ10月号（159号）」で詳細についてお知らせします。



特集「高大接続システム改革」

改革の方向性と今後のスケジュール

① 高大接続改革と「学力の3要素」

高大接続改革の実現に向けた具体的な方策を検討するために設置されていた「高大接続システム改革会議」の「最終報告」が、平成28年3月31日に発表されました。高大接続改革は、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の三位一体改革であり、「最終報告」の公表により改革の一定の方向性が示されたといえます。この改革をめぐっては、大学入学者選抜に関心が集まっていますが、その本質は教育改革であり、高等学校教育と大学教育を一体的に変えて、一貫した理念のもと、予見の困難な時代を生き抜く基盤となる力を育て、社会に送り出していくことが最大の眼目とされています。

求められているのは、これからの時代を生きる人間に備えるべき資質である「学力の3要素」をバランスよく涵養する教育への転換です。この「学力の3要素」とは、「十分な知識・技能」、「それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力」、「これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を指します。高大接続改革は、この「学力の3要素」を小学校・中学校・高等学校の教育でしっかりと育成し、大学入学者選抜においてそれらを多面的・総合的に評価し、大学教育ではそれらを一層伸ばして専門的な能力を育成することを目指しています。とは言え、「最終報告」の中の「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と大学入試センター試験に替わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」については、未だ具体的なイメージをつかむまでには至らず、不安が残る点があるのは否めません。文科省では4月から新たな検討・推進体制がつけられ、具体化に向けて引き続き議論がなされています。

高校側からすると、2つの新たなテストの行方が非常に気になる場所ですが、これらについては今後の動向を注意深く見ていく必要があります。大切なのは、次期学習指導要領の動きを見据えた学力向上に向けての取組であり、高大接続改革が目指す「学力の3要素」の育成です。その手段としてのアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が重視され、取組が進むことを願っています。

（副所長 福田 浩一郎）

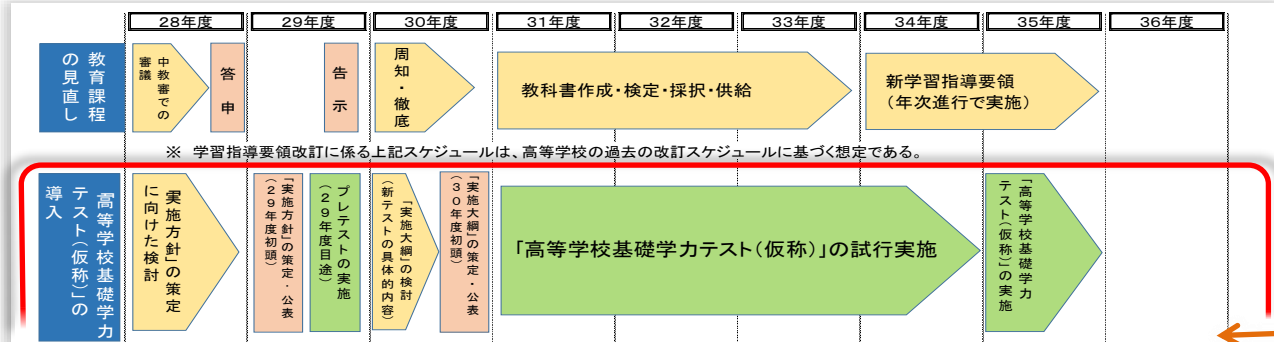


今回の「高大接続システム改革」についての記事を担当した福田副所長（左）と時貞副所長（右）

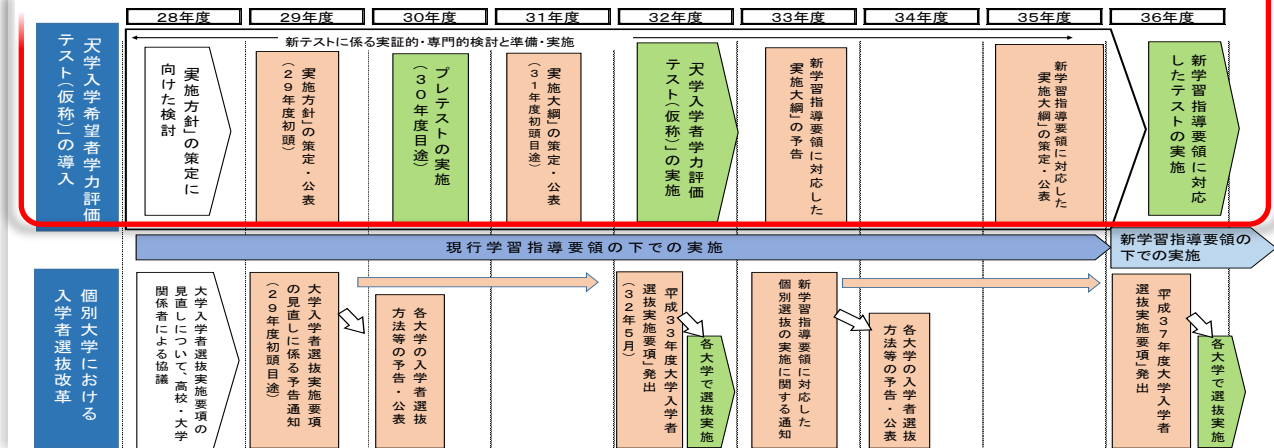
② 今後のスケジュール — 2つの新たなテストを中心に —

高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革である高大接続システム改革については、今後、引き続き審議が行われ、高等学校教育改革及び大学入学者選抜改革については、次頁の図のようにスケジュールが公表されています（いずれの図も「最終報告」pp. 66～68を参考に作成）。

高等学校教育改革



大学入学者選抜改革



2つの新たなテストのスケジュール

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の2つのテストについて、平成29年度には、「実施方針」が出され、出題内容や範囲、プレテストの実施内容、正式実施までのスケジュールなどが公表される予定です。なお、8月末に公表された内容も含めた、現段階での概要は以下のとおりです。

高校教育改革→学習・指導方法の改善のために導入

高等学校基礎学力テスト（仮称）

- ・平成31年度から試行実施、平成35年度実施
- ・義務教育段階の学習内容を含む高校生に求められる基礎学力の確かな習得、学習意欲の喚起が目的
- ・学習改善のツール（→PDCAサイクル） 当面は入試や就職に用いず
- ・当面は国英数のみ
- ・複数レベルから学校が選択し、その結果を定着度合として段階表示
- ・当面は紙による実施 CBT・IRTは引き続き研究・検討

「CBT」・・・Computer-Based Testingの略称。コンピューター上で実施する試験
「IRT」・・・Item Response Theory（項目反応理論）の略称。この理論を用いることによって複数回受験する場合に回ごとの試験問題の難易度の差による不公平を排除することが可能となる。なお、その導入のためには、事前に難易度推定のために全ての問題について予備調査することや多量に問題をストックすることが必要。

また、大学入学者選抜における評価の方法としては、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」だけでなく、「高校時代の学習・活動歴」等も検討されています。改革の方向性を見据えながら、高等学校教育における指導と評価の一層の充実が求められます。

（副所長 時貞 充尚）

大学入学者選抜改革→センター試験に替わるものとして

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）

- ・平成32年度実施＝現在の中学2年生
- ・論理的思考力や判断力、表現力を測れる内容
- ・記述式問題の導入
当面は国語と数学「条件付き記述式」を中心
採点方法・実施時期については検討 段階的な評価
- ・英語4技能の評価の検討（「書くこと」「話すこと」を含めた）
- ・マークシート式問題の改善（思考力・判断力を一層重視する内容）

【情報収集に当たっては…】

図書資料室の教育雑誌もご活用ください。例えば「高大接続改革」について、知りたいときは…

◆『高校教育』『中等教育資料』

…最新号以外は貸出可

◆『内外教育』

…閲覧のみ



【引用・参考文献】

- ・文部科学省「高大接続システム会議『最終報告』」 平成28年3月31日

URL: http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf

- ・文部科学省「高大接続改革の進捗状況について」 平成28年8月31日

URL: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/08/1376777.htm

- ・学事出版『月刊高校教育8月号』 平成28年8月

Link!

各URLをクリックすると該当のページにジャンプします。

佐賀県教育センター 〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上 TEL 0952-62-5211(代)

URL: <http://www.saga-ed.jp/>

「ミネルバ」については教育課程支援担当（直通 0952-62-5238）まで

コミュニケーション能力の素地を養う外国語活動

小学校外国語活動講座（7/29）より

「外国語活動の授業づくりについて学びたい!」と、多くの先生方が受講され、会場は、灼熱の外気に負けない受講者の熱気で満ち満ちていました。

午前中は、次期学習指導要領の動向を含めた今後の外国語活動の在り方を見据え、「今、確認しておくべきこと、やるべきこと」について、長崎大学の中村教授に話をいただきました。受講者を児童に見立て、模擬的にコミュニケーション活動を体験する演習をされました。「体験を通して外国語活動で育てたい児童の姿を具体的にイメージすることができました」との受講者の声がありました。



受講者と交流する中村教授



実践事例を紹介する吉田教諭(左)

午後は、多くの実践を積み重ねられてきたスーパーティーチャーの吉田教諭が、具体的なアクティビティの進め方、児童への声の掛け方について紹介されました。普段の児童の様子やクラスの間関係性を踏まえて授業を行うことで、児童が温かい気持ちをもって互に関わることができるということを、実践事例を交えながら教えていただきました。

本講座は、授業づくりについて学びながら、「コミュニケーション能力の素地を養う」という外国語活動の本来の趣旨について考えてもらう機会になりました。

「今の外国語活動の充実」が大切です

平成32年度、中学年で外国語活動が導入され、高学年では現在の外国語活動が教科化されますが、「コミュニケーション能力の素地を養う」という方向性は変わりません。文科省の調査官は、「先走りすることなく、今の外国語活動を充実させてほしい」と呼び掛けています。

外国語活動のゲームにおいて、「たくさんビンゴが揃った人に拍手!」「ゲームに勝った人がすごい!」と、声を掛けることがあるかもしれませんが、数やスピードを競わせてばかりいると、本来大切にしたいコミュニケーションの取り方自体が雑になってしまいます。そこで、例えば、「相手の目を見ながら、話を一生懸命に聴いていたね」「ジェスチャーも使って伝え方を工夫していたね」などと、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿に目を向け、声を掛けることで、児童は自ずとコミュニケーションの心地良さを感知、積極的に人と関わろうとするようになるでしょう。「コミュニケーション能力の素地を養う」という外国語活動の目標から考えても、積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとする児童の姿こそが大切なのです。

外国語活動では、このようなコミュニケーション活動を通して、児童が人と関わる心地良さを味わえる体験を積み重ねることが、今後も求められていきます。

(小学校外国語活動担当)



10月に実施する「サタセン」(土曜日に教育センターで行う自主参加の研修会)の概要をご紹介します。申込み方法等の詳細な内容は、各担当者から学校に案内します。

各自で直接お申込みください。(管理職を通しての申込みではありません)

校種・教科等	期日	時間	テーマ・内容等	担当者・連絡先
小学校国語科	10/8	10:00~12:30	「学びどき・教えどき 一教室の事実の観察と国語教育の創造」 児童が意欲的・主体的に取り組み、国語の力をつけることのできる学習課題、そして、それを見取る評価をみんなで考えてみませんか。	古川 雅・小旗 浩徳 Tel.0952-62-5214(古川)
中学校国語科	10/8	14:00~16:30	「学びどき・教えどき 一深い学びをつくる評価の方法」 佐賀大学の達富洋二教授を講師としてお迎えし、講義、演習・協議を通して、「評価」について考えます。	洲上 知子・岩瀬 弘憲 Tel.0952-62-5214(洲上)
小・中学校音楽科	10/8	14:00~16:30	「演奏活動だけで終わらない! 器楽の授業づくり」【会場:附属中学校】 秋の音楽行事に向けて器楽指導をされている学校もあると思います。演奏だけで終わることなく、児童生徒の思いや意図を大切に器楽指導のポイントを一緒に考えてみませんか?	副島 和久・坂本 康子 釋 美貴子 Tel.0952-62-5238(釋)
中学校英語科	10/15	14:00~16:00	「今さら聞けない! 基礎・基本」 フラッシュカードの使い方や音読の指導など、本当は大切だけど、今さら誰にも聞けないことをみんなでおさらいしましょう。	金丸 大樹・日吉 敬子 Tel.0952-62-5214(金丸)
高等学校生物	10/15	14:00~16:00	「授業に役立つ実験・観察」 学校では実験が難しいDNAの電気泳動に挑戦してみませんか?タンパク質の3D模型作りも紹介します。	橋本 孝・山村 元子 Tel.0952-62-5213(山村)
生徒指導 特別支援教育	10/15	10:00~12:00	「どうしたらいいの?! 発達障害等のある子供への対応 特別支援教育のお悩み相談会」 困り感を抱えた子供たちの生活面や学習面への対応の仕方などについて一緒に考えてみませんか?	伊東 一義・中島 由美・堤 文 水野 留美子・田代 いづみ Tel.0952-62-5211(伊東)
小・中学校理科	10/29	14:00~17:00	「目で見て確める 佐賀の地層」【集合場所:多久市中央公園駐車場】 多久市周辺の露頭を観察します。直接、目で見たものを子供たちに伝えてみませんか?	橋本 孝・高取 照秋 Tel.0952-62-5213(高取)
小学校外国語活動	10/29	14:00~16:00	「これでOK! 外国語活動の授業づくり」 どんな風に授業を進めたらいいの?という疑問を、スーパーティーチャーの吉田まりか先生と共に解決しましょう。12月に使える楽しいクリスマスネタも準備しています!	川原 浩子 Tel.0952-62-5238(川原)

教育センターでは、県内の学校教育における教科・領域等の諸課題の解決に向けて、1年間または半年間の長期研修生を毎年募集しています。長期研修生の皆さんは、それぞれ教科・領域等の実践的な指導力の向上を目指して研究目標を設定し、計画的に研究に取り組むとともに、ミドルリーダーとしての資質・能力の向上を目指した研修にも参加します。

今年も7名の長期研修生が、3月の成果発表会に向けて試行錯誤をしながら日々研修に取り組んでいます。今回は、そのうちの4名を紹介します。

「友達の考えを生かす」

小学校 国語科
杉原 大輔 研修生
〈唐津市立長松小学校〉



小学校国語科としての思考力を、話し合う場面において、どのように育てていくかということを追究していく研究に取り組んでいます。

話し合う場面において、児童が友達の考えに触れ、自分の考えを深めたり、その後の自分の考え方に生かしたりすることができるように、言語活動における教師の手立てについて研究を進めています。

現在は、心理学の視点から理論研究を行っているところです。

「自分の考えをもち 問い続ける」

小学校 社会科
西川 真裕美 研修生
〈佐賀市立巨勢小学校〉



小学校社会科の問題解決的な学習の「つかむ」過程で、児童の気付きや疑問を基に学習問題を設定することで、自ら学び続ける児童の育成について研究に取り組んでいます。

「あれ?」「えっ?」「なぜ?」「どうやって?」という児童の思いを大切にしています。そのような児童の思いが、社会的事象と接したとき、自分で調べ、自分の考えをもつことへつながるといふ仮説を立てて、研究を進めています。現在は実践を行う中で試行錯誤しているところです。

「見通しをもたせる」

小学校 理科
野上 貴史 研修生
〈佐賀市立神野小学校〉



小学校理科の授業において、実験前の見通しをもつ段階での指導の在り方について研究をしています。

児童が設定した実験の仮説の根拠を、「直感」「生活経験」「既習の知識」の3つの観点を意識させながら、比較し検討させる交流活動の場面を設定します。

そうすることで、初めの仮説がより確からしいものへと変容し、実験への目的意識が高まり、観察の視点の明確化を図ることができると考え、研究を行っています。

「自己肯定感を高める」

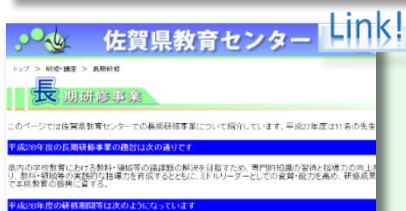
小学校 教育相談
嬉野 一紀 研修生
〈佐賀市立思斉小学校〉



思いを伝え合う交流活動を通して、低学年児童の自己肯定感を高める支援の在り方を探ろうと考えています。

友達との関わりを苦手としている児童は、人間関係をうまく築くことができずに傷付き、自信を失い、自己肯定感が低くなっていると考えられます。

思いを伝えたり、受け容れてもらったりする体験を通して、児童の自己肯定感を高めていくような研究をしたいと考えています。学校現場に役立つ研究になるよう頑張ります。



教育センターWebの「長期研修事業」では、過去15年分の長期研修生の研修報告書を掲載しています。授業づくりの参考として、是非ご活用ください。

今回の「ミネルバ10月号」では、「平成28年度長期研修生の紹介その②」として3名の長期研修生を紹介します。乞うご期待！